

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こまがねテラスでランチプロジェクト
事業主体 (連絡先)	こまがねテラス 事務局：駒ヶ根市役所商工振興課内
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (エ 商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	974,160円 (うち支援金：779,000円)

事業内容

全国的にも中心市街地の衰退が問題となっているなか、駅前広場の整備や官民連携の取り組みなど街なかで大きな変化があり、新規創業も増えている。

街なかでは現在ランチ営業店が30店舗以上に増加しているものの、来街者が少ないことが課題である。

そこで、地域広報誌やランチマップ、SNSを活用して店舗を紹介する「まちなかランチ」や、街なかに設置したテラス席でテイクアウト品を楽しむ「テイクアウトパーク」を実施した。



【テイクアウトパーク】

【目標・ねらい】

- ①街なかを歩き交う人を増やす
- ②飲食店の売り上げ増加
- ③観光客など関係人口の増加
- ④街なかの新規創業の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・上伊那全域を網羅している月刊かみいなへの掲載、メニューブックの設置、SNSでの情報発信で多くの地域からお客様に訪れていただけた。

・スタンプラリーの実施により、街なかへのリピーターにも繋がった。

・屋外でのテイクアウト品の飲食は、コロナ禍での新しい生活様式の提案や売り上げが下がっている飲食店の下支えとしても効果があった。

※自己評価【A】

【理由】

多くの地域から街なかにランチを食べに来ていただけたことは予定通り。新型コロナの影響で実施したテイクアウトパークは今後に関わる取り組みとなった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度は新型コロナの影響で観光客に来街してもらうことができなかったため、今回作製した媒体を利用して、観光客向けの発信を強化したい。

テイクアウトパークは継続して開催することで、飲食店が集積している街なかのメリットを生かせることから、ウィズコロナ時代を見据えて、定期的開催したい。

中心市街地ではKOMAX夏などのお祭りや、あつい！駒ヶ根の縁日など多くの催しや団体が活動している。これらと融合することで相乗効果を生み、多くの皆様に駒ヶ根の中心市街地が楽しい場所としてのイメージがつけられることを期待したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある